で嚮導され、斯くしてその生産的結果を生じてゐる場合には、我々は、茲に眞の生産者達ありと謂ひたくなる。が一寸考へれば、眞の生産者の中に、設計者――發明家や技師――をも含ませるやうになる。そして尙一層反省すれば、指揮者や雇主をも含ませるやうになる。此の最後の人々卽ち實業家階級は、若干の人々殊に社會主義者には、單なる搾取者（エクスプロイター）だと思はれてゐる。卽ち此等の人々の考に依れば、眞の仕事は他の人々に依つて爲されてゐるのであつて、實業家は、その側にゐて通行稅を取るに過ぎないのである。がこれより大きな誤解は無い。産業の能率が實業家の指導に依存してゐる程度は、軍隊の能率が統帥に依存してゐるのと殆んど同じである。凡そ複雜な分業が行はれてゐる下では、種々樣々の生産素因を蒐集し、且つ此等を適當に組合さねばならない。相異れる種類の勞働と資本とを、最上の自然的諸資源に適合させねばならない。生産者と消費者との間の、大きな溝に橋を架けねばならない。ところが熟練職工は勿論技師でさへも、若し事業指導者の嚮導がなければ、普通には途方に暮れるであらう。産業が急速に推移してゐる場合には殊にそうである。勇氣、根氣、判斷、及び資本の支配は、經濟的進步の爲に必要缺ぐべからざるものである。なほ、産業上の指導の重要さに就ては、研究の進むにつれて詳說するであらう。

今一種の指導は科學者の指導である。凡そ物質的文明の進步は、自然法則に關する理解力に依在してゐる。天文學者、物理學者、化學者、生物學者――此等の科學者は、諸々の技術の發達の爲に基礎を作る。彼等の努力は、より高尙な諸々の動機に依つて――眞理に對する一意專心的探求に依つて、或は、物質的報酬の希望よりは寧ろ名譽の愛著に依つて――刺戟さるゝこと大抵の人々よりも大なるが常である。斯くして科學的探求が技術に及ぼす影響は、往々間接であり、且つ豫期されないものではあるけれども、やはりそれは重大である。ファラデーが感應電流を發見した時には、彼は、其れが産業上何かになるといふやうな事を考へてはゐなかつた、けれども發電機に依つて、經濟的進步が如何に深大に影響されたことであらう！（註一）。

（註一）同僚シー・エル・ヂャックスン教授が余の注意を促したところに依れば、バアキンの紫色染料の發見はアニリン染料工業を發生せしめ、グリーベとリーベルマンとのアリザリンに關する研究はコールタールからのアリザリン染料製造業を發生せしめ、その他にも、純科學上の發見から産業上の變化が生じた幾多の例があるとのことである。

指導者たり得る者は稀であつて、大部分の人は凡庸の徒である。が進步を促進する爲の手段の中で、秀れた能力を有する人々の發見及び刺戟より重要なものは何も無い。

機會の均等と敎育の普及とは、異常な天分を有する人々を發見する爲の手段である。現に敎

育が無く、而も無學な周圍に依つて抑壓されてゐるやうな人々の中にも、多數の才人及び稀なる天才があるかも知れない。だから教育の普及の一般的利益の中には、その力に依つて天分のある總ての人々が醒され、且つ發達させられる、といふ事實を加ふべきである。なるほど、秀れた天稟を有する人々が、恐らくは、既に教育と機會とを自由に得てゐる人々の間に、幾らでもあるであらう。が我々は茲では、社會的諸階級の起原及び意義に關する問題に觸れてゐるのである。中産階級がそのより惠まれた地位に在るのは、彼等が大體より秀れた智的能力を有するからだといふことは、之を證明する爲の證據がある。しかし此の命題は、たとへ其れが設けられるとしても、大きな制限を受けねばならない、そして確かに、より不仕合せな人々の中には、未だ利用されてゐない潜在的有能者が多少あるといふことは、之を認めねばならない。天分を有する人々は、謂はゆる下層階級の中には、その總數に比例しては恐らくより少いであらうが、しかし絶對的には澤山ゐるかも知れない。此等の人々の天分の一切を充分に發達させて能率を增進し、殊に指導者を作るといふことは、教育を廣く普及せしめる最も重要な目的の一つである。

自由と平等とは、不足な指導者の數を充分なまでに增加する效果がある。近代に於ける特權階級の廢止は、曾に政治的及び社會的の結果を生じたのみならず、直接の經濟的結果をも亦生じた。例へば、第十八世紀及び第十九世紀を通じての英蘭の産業上の優越は、大いにその自由制度に負ふてゐた。英蘭では、生れ卑しき人々の出世の機會が、たとへ制限されてゐたにはしても、矢張り大陸諸國に於けるよりも多かつた、從つて英蘭はそれだけ利益を得たのである。合衆國に於ては斯かる機會が、嘗ての世界のどの地方に於けるよりも自由であつた、そして此の國の驚くべき物質的繁榮は、他のどの素因にも優つて、此の素因に負ふてゐるのである。

指導者たる特性を有する人々に對しては、曾に自由な原野を與へねばならぬばかりではない、彼等に對しては、なほ、その天分を充分に行使する爲の刺戟を與へねばならぬのである。或る種の不平等は、刺戟として必要缺ぐべからざるものゝやうに思はれる。

茲に明かに、右に述べ來つた諸問題とはその趣を異にするところの、一個の問題がある。即ち、天分を有する人に對し彼をしてその全力を盡さしめるに必要な手段（自由や平等）を供給することゝ、彼に對し彼をしてその全力を盡さしめるに必要な刺戟となるであらうところの報酬を與へることゝの間には、重要な相異があるといふことである。異常な才能を有する人々の稀少と能率とに比例した何等かの報酬は、彼等をしてその最高の調子（ヒッチ）にまで努力せしめる爲に必要だと思は

れる。兎に角、産業上の指導者たる天分を有する人々に就ての、人類の經驗はそうであつた。人々をして經濟的活動を爲さしめる爲の刺戟の中で、その效果に於て、大所得の見込といふ刺戟に比肩し得るものは未だ之を見ないのである。所得と財産との不平等は、之を産業的能率上の相異に基いて論ずる限りでは、生産上の一般能率を擧げる爲の極めて有力な手段である。

之は、確かに、個人主義的な見解である。卽ちそれは、大部分の人々は彼等の取引及び所得稼ぎに於て、何よりも先づ利己的動機に依つて支配されてゐる、といふことを假定してゐる。ところが極端な集産主義者の見解に從へば、容易に人々をして自己的動機以外の動機に依つてその才能を充分に適用させることが出來る、といふのである。孰れの見解も、制限なしに之を維持することは出來ない。卽ち一方では、或る種の指導が殆んど報酬に關する考慮なしに受持たれてゐる。文學に於て、美術に於て、純正科學に於て、極めて高い智的天分を有する人々が、殆んど不可抗的の衝動に驅られて働いてゐる。が他方では、産業上の指導や産業上の能率は、産業上の報酬に依存してゐるやうである。不平等なしに、否兎にかく大きな不平等なしに、産業界の人々を刺戟する見込があるか否かといふことは、經濟學上の最も困難な問題の一つとなつてゐる、從つてその充分な考察は、之を後段に讓らねばならない。[1] 茲では只だ、多くの所得及び身代を作る機會といふ形での物質的報酬が、今日までゞは、經濟的指導者を誘出し且つ刺戟する爲に驚くべく有力な、且つ一見必要缺くべからざるものであつた、といふことを謂へば充分である。

1) 第七篇第六十七章參照。

第四節　社會の非物質的裝備。教育に依つて、及び遺傳に依つて、如何に影響されるか。

一言にして之を蔽へば、産業上の能率は、啻に物質的裝備に依存してゐるのみならず、非物質的裝備とも呼び得べきものにも亦依存してゐる、卽ち啻に、蓄積された剩餘資本に依存してゐるのみならず、蓄積された道德的及び智的特性にも亦依存してゐるのである。だから維持及び傳達は、社會の物質的資本に就てと同樣に、此の非物質的資本に就ても重要である。

敎育は、その種族が獲得した學識藝能をば、讀み書きの初步から最も込入つた專門的敎育まで、代から代へ傳達するが其れは、啻に此等の智的獲得物のみならず、道德的特性をも代々傳

へられるに相違ない。勤勉、誠實、正直、眞面目の習慣、他人に對する思ひ遣りの習慣、共同の福利を心掛ける習慣――總て此等は、徐々に發達するものであり、そして模範や教訓の反復に依存してゐるのである。

此等のものは、或る程度まで遺傳に依つても亦傳達される。生物學者達は今尙、後天的特性が遺傳するか否かといふ問題に就て、その意見を異にしてゐる。が、より一般的な見解に從へば、其れは遺傳しないで、先天的特性のみが兩親から子孫に傳はるのであるらしい。若し之が自然に於ける普遍的法則であるならば、人間も亦之に從はねばならない、そしてそうだとすれば、文明人を特色付けてゐる諸特性の內少くともその幾つかは、一定の教育に依つてのみ維持され得るのである。その他の特性は、恐らく、淘汰の過程に依つて――歷史の長い經過に於いて、開化し得る傾向のより少い特性を淘汰することに依つて――人間の性質の中に織込まれたものであらう。人間の性質は變化し且つ進步する、そして現在の人間の特性は、數千年前よりも、恐らくは數世紀前よりも、より立派になつてゐる。此の進步の過程を計劃的に――動物でやつてゐるやうに、よく選擇した血統から人間を生み育てることに依つて――促さうといふことが、度々提案されてゐる。が茲では、斯かる提案が惹起する重大な諸問題には立入らないで、斯ういふことが謂へるであらう――我々が豫想し得る限りの將來に於ては、先天的特性の傳達及び起り得べきその進步を影響するものは、たゞ無意識的淘汰の緩漫な且つ偶然の過程のみであらう。人間の才能及び性質の總平均に就て見れば、一つの代から次の代へ、大體に於て現狀の儘で遺傳するのである。

併し、若し教育が持續され且つ繰返されるならば、人類は、曾にその現狀の儘で維持さるゝに止まらない、卽ちそこには、人類の進步といふより直接な見込があるのである。遺傳された特性と同樣に、この教育は、文明人と野蠻人との間の差異を形成するに與つて力がある。人間の偉大な道德的、智的、教育的の資本は、その物質的資本と同樣に、之を不斷の努力に依つて保持せねばならない、また其れは、物質的資本と同樣に、之を努力に依つて增加することが出來るのである。二つの方面に於て、この努力は大いに利他的のものである。卽ち其れは、一方では兩親の世話と犧牲との、他方では教育の普及に依つてその全成員の質を改善しようとする社會の意識的努力の、結果である。しかし其れはまた少なからざる程度に於て、自愛的動機の――各個人の、彼自身の條件及びその家族の條件を改善したいといふ願望の――結果である。確かに今日の人間は、なほ一層の發達を可能ならしめるところの、有利な地點から出發してゐ

る。卽ち彼は、文明を進める爲の若干の特性を既に遺傳に依つて得て居り、またその同じ特性の若干を、不斷の努力に依つて獲得し且つ傳達してゐるのである。此等一切のものゝ結果は、その社會の偉大なる非物質的資本となる、卽ちそれは、諸々の道具や材料から成立つその社會の物質的資本と同樣に、その全般的福祉を增進する爲に重要な、そして恐らくは範圍の廣い、一種の財產である。

第一篇の參考書類

生產的及び不生產的勞働に關して參考とすべきは、Adam Smith, Wealth of Nations, Book II, Chapter III に於ける屬〻引用されてゐる諸頁、及び J. S. Mill, Principles of Political Economy, Book I, Chapter IV に於ける其等である。* W. Roscher, Political Economy, Book I, Chapter III には秀れた歷史的及び批判的說明が加へられてゐる。現代の論說中で最大の注目に値するものは、Proceedings of the American Economic Association, 1901, No. 1. に於ける『產業的』及び『金融的』諸職業に關する T. Veblen 敎授の論文である。

分業に關しては、Charles Babbage, On the Economy of Machinery and Manufactures (1837) は今尙參考すべきに足る。その近代的發達に關しては、Thirteenth Annual Report of the Commissioner of Labor (U. S.) on Hand and Machine Labor (1899) に多數の例證が包含されてゐる。分業をば、その歷史的形態の點から銳利に分析したものは、K. Bücher, Die Entstehung der Volkswirthschaft (16 Auflage, 1922) に在る。本書は Industrial Evolution の表題と（一九〇一年）第三獨逸版から英語に譯されてゐる。*第十八世紀の產業革命に關して參照すべきは、Mantoux, La révolution industrielle au XVIII. siècle (1906) に於けるよく組織立つた物語、及び A. Toynbee, Lectures on the Industrial Revolution (10th ed., 1894) に於ける餘り組織的ではないがより哲學的な說明である。

資本に關しては第五篇の終に擧げた參考書參照。最近、會社事業及び會社組織に關して書かれたものが多いけれども、余は第六章に於て考察した諸々の題目に關する有益な參考書を知らない。

橫斷的及び縱斷的合同、殊に英國の狀態に關聯した立派な研究は、G. R. Carter, The Tendency toward Industrial Combination (1913) である。

* Grundlagen der Nationalökonomie. 英譯は第十三獨逸版から譯されたものである。

* 日本譯には、權田保之助氏譯『經濟的文明史論』大正十年訂正第二版がある。

大正十二年六月二十八日印刷
大正十二年七月一日發行

タウシツグ經濟學原理
正價金貳圓

著者　長谷部文雄

發行兼印刷者　八坂淺次郎
京都市丸太町寺町東入

印刷所　弘文堂印刷部
京都市夷川通川端東入

禁漢譯
不許複製

發行所　弘文堂書房
京都市丸太町寺町東
振替口座一七〇五番
電話上二〇〇九番

賣捌所　有斐閣書房
東京神田一ツ橋通町
振替東京三七〇番

512
197

落